

『時評』 2006 年 11 月号 掲載

山本雄二郎の霞が関診断 323 回

戦後最年少・安倍晋三首相の正体は そして何を変えるのか

「過去の侵略」を曖昧にするな 藤井
祖父岸氏の敗戦責任をどうみる 山本

5 年半ぶりの政権交替で安倍内閣が発足した。安倍晋三首相は改憲、教育再生、主張する外交を掲げタカ派色を鮮明に打ち出した。その問題点は何か——。元民主党幹事長、マスコミでの積極的発言が目立つ藤井裕久氏と 2 時間半タツプリ話しあった。

不良債権処理の功、格差拡大の罪

山本 小泉政権から安倍政権に移り、何が変わり、何が変わらないのか、その問題を考える前に小泉政権 5 年 5 ヶ月の実績を検証したいと思います。その功罪はいかがですか。

藤井 内政でいえば、格差社会をつくったのが政治姿勢の反映だと思います。それは雇用、社会保障、税制、地方分権政策などからきているのです。経済政策の中心にいた竹中平蔵さんが、財政支出と金融緩和の強い要求に対して不良債権処理に着目したのは正しかったと思います。一方、社会保障政策が手薄だったことが格差社会をもたらし、企業業績がバブル時代を上回るのに株価が 1 万 5 千円台に低迷しているのは、働く人の犠牲の上での大企業の利益を物語っています。

山本 勤労者の所得が抑え込まれた。

藤井 企業収益回復が消費に波及するとの過去の景気回復のパターンが崩れたと市場が見ています。

外交面では安倍さんの方がもっと悪く、小泉さんは(東京裁判の)A級戦犯は犯罪人と言っていますが、安倍さんは後世の歴史家が決めると言います。(安倍氏の叔父で、興銀最後の頭取で 8 月に死去した)西村正雄氏が「最高指導者は日本自身が戦争責任を自覚せよ」と書いたことが重要なのです。

※西村氏は『論座』7月号に「次の首相に何を望むか」の論文を寄せ親交の深い藤井氏に「この内容は君に対する直言で故安倍晋太郎も恐らく同意見と思うのでよく読むように」と伝えておきました、との文書を雑誌に添えて送ってきた。

大正4年の対華21ヶ条要求、昭和6年の満州事変、昭和12年の盧溝橋事件で南京まで侵攻した(過去の侵略)のをどう考えるのか、これだけは少なくとも(安倍首相は)言うべきだと思うのです。河野衆院議長でさえ8月15日の戦没者追悼挨拶の中で戦争責任を曖昧にはいけないと言いました。

山本 お話の途中ですが、ハト派の河野さんが何故タカ派の麻生外相と同じグループで、総裁選挙でも河野派がまとまって麻生氏を担いだのか、政治家の行動は不可解です。

藤井 自民党には多様な考えの人がいるのに、安倍さん支持に雪崩現象が起きた。思想信条が違ってても打算で動くのは当たり前、実に情けないと思います。組閣だって論功行賞とお友達ですから(笑)。

ところで靖国問題のベースは歴史認識であり、政教分離だと思うのです。日本の神道は本来、鎮守の森に神様がいらして住民を譲るという平和の宗教なのに、明治初期の廃仏棄釈で国家神道になりました。その結果、他の宗教を大弾圧し創価学会もやられた。そのことを(自民党べったりの)今の創価学会・公明党には考えてもらいたい(笑)。首相の靖国参拝を見過ごしているのは理解できません。

山本 まさにそうです。

藤井 私は田中(角栄)首相の秘書官でしたが、田中内閣は佐藤内閣以来の懸案、靖国を財政で支援する国家護持法の制定を諦めました。その時の議論で国家護持の前提に、鳥居を外し神殿造りをやめる、祝詞のイザナギイザナミをやめろというのが出たのです。今、特殊法人化の議論がありますが、一宗教に国が関与したり首相が参拝したりすることにはムリがあると思います。

山本 ただ靖国には戦没者の追悼との関係者の強い思いもあります。

藤井 私は当時の都下、小平に学童疎開しましたが、帝都防衛隊の特攻機がB29に体当たりするのを目撃しました。あのように純粋に国に殉じた戦没者を追悼するのは当然ですが、若者たちを追い込んでいった戦争指導者と同じに祀るのは筋が通りません。全国民を代表する首相は天皇が参拝しないのと同じ立場なのです。強行した小泉さんはいけません。

周恩来総理の日中国交回復時の演説、悪いのは日本のひと握りの戦争指導者で一

般の日本人は中国人同様、戦争犠牲者との発言に、安倍さんが文書に残っていないといいました。これは(A級戦犯容疑者)祖父、岸信介を擁護するのかもしれないが、ひどい話です。

山本 遺族会の票欲しさの動機も不純。

藤井 もう一つ、米軍再編成に関する日米安保の問題も見過ごせません。マレーシア、シンガポールなどからもアジアを敵にまわしかねないとの警告が聞こえてきます。日米基軸中でも過去の首相は中国など周辺国に配慮しながらバランスをとってきました。それが小泉さんは、日米強化がアジアにもよいといいました。安倍さんも同じ。第一次世界大戦がセルビアとオーストリーの扮装が同盟国を通じて一気に世界に拡大したように、同盟関係は本来怖いものとの認識を持つ必要もあります。

山本 米国が常に正しいとは限りません。実際、テロ撲滅のアフガン攻撃、イラク戦争が逆にテロを強化、拡大しました。

藤井 イスラム同盟ができるかもしれません。

疎外感とナショナリズムの結合

山本 小泉さんは変人といわれましたが、数々の言動に人間として欠陥を感じるケースが少ない。マジシャン、手品師、アジテーターの要素があって、テレビをうまく利用して詭弁、誤魔化しを駆使し、結果的に世論を味方にしてきました。ヒトラーが「マインカンフ(わが闘争)」に書いた大衆扇動術そのままという気がします。

藤井 私が民主党幹事長の頃、小泉首相がヒトラーだと言ったら、私は独裁者ではないと反論してきました。独裁者ではなくてもアジテーターなのですよ。扇動者は国民を熱狂の渦に巻き込んで国民に考えさせる余裕を奪い、ナショナリストに仕立てあげるのです。この対極にあるのが二次大戦のルーズベルト大統領のラジオでの「炉辺談話」でした。国民に静かに語りかけ理解を求めたのです。

山本 扇動に乗せられて世論調査が急激に変わります。イラク派兵、靖国参拝……。

藤井 日本で世論の懐の深さが違うように思います。米国人の方が遥かに深い。

山本 日露戦争、満州建国、日中戦争、太平洋戦争とたどってみれば軍部独裁というものの世論に熱狂的なナショナリズムが盛り上がり、いやそのように扇動されて軍部の思う壺にはまったという面を否定できません。マスコミの責任も重いと思います。

藤井 (日露講和会議の日本全権の)小村寿太郎のような外交官が出ると言いたい。あの戦争を継続していたら半年で敗戦でした。弱腰などと批判されながらよく収めた。

山本 加藤紘一さんのように家を焼かれる、テレビでハト派の発言をすると脅迫電話がかかり、出演依頼がなくなるようになります。この五年半、日本社会は驚くほど悪くなりました。子殺し、親殺し、飲酒運転事故、ストーカー、振り込め詐欺、県知事の不祥事……、毎日のようにひどい事件が起きます。この風潮に政治が無関係とは言えません。

藤井 格差社会で(経済社会から)疎外された人たちの心がすさぶのです。殺人、放火も訳の分からないのが出てきました。小泉政治と無関係とは言えません。

山本 愛国だ規範だと言いますが、小泉発言自体、規範に外れたことが多いですね。それなのに小泉批判が盛り上がらなかったのも不思議です。世論は政治的操作に弱い。

藤井 疎外感とナショナリズムが結びつくのです。昭和初期のナショナリズムの背景に、不況による弱者の問題がありました。当時の農村の疲弊にもとづく社会の矛盾が青年将校を決起させたのです。五・一五事件で主犯格の三上卓に全国から助命嘆願運動が起こり、二・二六事件で処刑されて安藤大尉は、当番兵の姉が身売りさせられた話を聞いて行動を起こしたと伝えられています。

山本 格差の拡大を軽視してはならない。

藤井 徳川家康は、乏しきを憂えず等しからざるを憂うと言いました。皆が貧乏ならそれなりに耐えられるが、格差は許せない。

山本 成熟社会の政治は右に振れたら左にと振り子の復元作用が働きます。「安保の岸」の後には「寛容と忍耐」を掲げた所得倍増の池田内閣のように。米国も9・11の興奮が冷めてブッシュ人気下がっています。

藤井 世界の世論が変わってきました。英国のブレア首相の退陣発言も「健全な社会」を物語る。日本だけドンドン右に行く。

維新以来の、長州の発想

山本 いやな感じですね。さて、安倍首相は小泉さんの促成栽培だと言いますが。

藤井 水耕栽培ですか(笑)。

山本 マスコミは人柄や毛並みを褒め讃えますが、突っ込んで考えると明治維新で主導権をとった長州(山口県)の思想であり、祖父の岸信介崇拜なんですね。山口県は初代伊藤博文から今度の安倍氏まで最多の八人の首相を出しました。陸軍の基礎を作った山縣有朋は薩摩が薩長中心の軍隊を主張したのに対し、欧州並みの徴兵制を強行、国民の抵抗を和らげるために戦争で死ぬば神になるとの招魂社(現靖国神社)を東京・九段に設置するのです。徴兵制は血税、つまり生き血を抜かれると庶民に恐れられたのです。

藤井 靖国神社に大村益次郎(長州出身、官軍の指揮をとり上野で幕府の彰義隊を壊滅させた)の銅像が目立ちますが、これからも長州の神社ではないかという人もいます。

山本 明治維新は日本近代化を達成しましたが、同時に富国強兵で大陸侵略の軍国主義、帝国主義の基礎を造ったのも事実です。

藤井 山縣は、自衛には生命戦と利益戦があると言っています。前者は自衛そのものなのに、利益戦とは周辺も確保しないと防衛はできないというのです。韓国統合、満州建国などはその発想の延長線なのです。

山本 日清、日露はともかく朝鮮併合、対華二十一か条要求、満州事変あたりからは侵略というのが共通認識といえるのでしょうか。大清帝国が意外に弱かった、大国ロシアもとにかくやっつけた、これならやれるぞということになったのではないですか(笑)。

藤井 中華帝国は元、民、清とも末期は大いに乱れて最後に政権が転覆します。そうした繰り返しの歴史の中で、清朝末期と明治がその時期にあったのですね。

山本 勝海舟は清国の李鴻章と親交があり、日清戦争に反対し脱亜論の福沢諭吉と対立します。三国干渉で遼東半島返還に追い込まれた時、いわんこっちゃないと。

藤井 福沢諭吉の脱亜入欧は彼の欠点です。日清戦争には明治天皇も伊藤博文も反対でした。伊藤は日露戦争にも反対でバランス感覚があったと思います。韓国併合はやり過ぎ

と韓国総監を辞めたのに韓国人に殺された。

山本 安倍晋三の父方の祖父、安倍寛は戦時の大政翼賛会非推薦で代議士に当選した気骨の政治家ですね。戦後間もなく亡くなり一人っ子の晋太郎氏に岸信介の長女洋子さんが嫁ぐのですね。養子をとるように。

藤井 晋太郎氏は寛氏の影響を受けたが、晋三氏は母方の祖父の影響下に育ったのでしょう。それが晋太郎氏の異父弟、西村正雄氏の晋三氏宛ての直言になったのです。だが晋三さんは(母方の)祖父のことを言っても父のことは、あまり言いません。

山本 晋三氏は小学校から大学まで成蹊一本で過ごし、一時勤めた神戸製鋼も腰掛けのようなもので、毛並みはいいが世間並みの苦労知らず、庶民のことは分からない。格差社会の中での典型的な上流階級ですね。

藤井 田中角栄さんが「戦争を知る人間が社会の中核なら世は悪くならない。戦争を知らない人たちが世の中に出た時が怖い」と言っていました。それがまさに今です。小泉さんも小沢さんも戦後の生活苦は知っています。田中さんは満州で軍紀の乱れを実感したのです。その点、明治の軍人は立派だったそうですね。

山本 軍隊も文明国の欧米にはいいところを見せたが、野蛮と軽蔑するアジアには中国、韓国を含めひどい態度で臨んだのです。

藤井 A級戦犯の広田弘毅元首相が処刑前に「こんな世の中にしたのは長州の憲法(明治憲法)だ」と言ったそうです。憲法条文より運用した政治家のことだと思います。安倍首相について言えば、タカ派の発想が小泉さん以上に怖いと思います。

「美しい国」づくりは美化ではない

山本 歴史認識で太平洋戦争には帝国主義同士の戦いと解釈が可能としても韓国併合、満州事変、満州建国、日中戦争は侵略とみるのが一般的です。それに後世の歴史家の判断というのは世界に通らないし国内でも少数意見です。

藤井 日米開戦のきっかけは満州建国に対する米国の対日経済制裁です。これが日本の国論を反米一つにまとめたわけで、北朝鮮への経済制裁でも同じ効果を及ぼしたと思います。負けてもやるぞ、とおよそ論理的でない事態を招くのです。

山本 今の北朝鮮は戦時中の日本と同じです。国民の敵愾心を煽って戦争がしたい勢力の思
う壺にはめるのです。安倍内閣の閣僚は思想信条が右寄りで一致しています。反軍国
主義を自虐的歴史観と批判するのです。

藤井 特に首相補佐官がそうです。戦時中の米国国務省高官ジョージ・ケナンは戦争に関する
米国の間違いを列挙し、日本からも賠償を取るべきでないと言いました。戦勝国でもそう
した謙虚な人がいたのです。

山本 自虐といいますが、反省なんです。神ならぬ人間は間違いを犯すものですから常に反省
は必要なので、自分が正しいと言い張るだけでは国際紛争は絶えません。

藤井 それが美化です。自分の行動を美化するのが「美しい国」では困ります(笑)。

山本 岸さんで指摘したいのは、経済官僚の彼が日米開戦の東条内閣の商工大臣で、満州経
営の中心人物だったことです。日米開戦には山本五十六・連合艦隊司令長官が反対、
どうしてもやるなら一年位は暴れてみせるが、その後は自信がないと言った程です。日
米国力を熟知していた岸さんの敗戦責任は歴然です。賀屋弘宣蔵相にもいえます。

藤井 日独伊三国同盟の議論の時、海軍省トリオの米内海相、山本次官、井上軍務局長が反
対し、推進派の板垣陸相に「米国との戦争に勝てるか」と迫り陸相は一旦引き下がった
ものの「陸軍内をまとめられなかった」と言います。米国は、戦争責任は裁いたが確かに
敗戦責任もあり、これは日本自身で裁くべきだったと思います。

山本 岸さんは戦犯容疑で巣鴨拘置所に入った時に、中学の恩師に「あの聖戦は」と書き送っ
た程の確信犯(笑)、だから孫の安倍首相も村山談話を認めない(本会議を欠席)。戦争
を知らない世代が増えて同じ間違いを犯すのが心配です。

藤井 知らなくても(歴史を正しく)勉強すればいいのです。

山本 日本には全体主義的な要素があります。何かあると一つの方向に動くのです。米国で
はブッシュは国家テロなどと平気という学者がいて講演会は満員です。

藤井 「文明の衝突」を書いたハンチントンが「米国帝国主義」といっています。自分の価値観
を他国に押しつけるのは、まさに帝国主義です。中東など違う政治体制を武力で改めさ
せようとするのは問題です。

山本 マグナカルタやフランス革命から始まった民主主義は最善の政治制度でしょうが、その理念は国内に止まり、外には歯止めがない。そこを考える段階にきている。

藤井 パウエル元国務長官は米国にはテロでも相手国には愛国者かも知れないと言いましたやはり懐の深い国だと思います。

山本 そして米国もネオコンが黙りブッシュ支持率も下がり、流れが変わってきました。日本の流れは逆ですね。しかも若者たちはそういう問題に興味を示さない。

藤井 戦没者の遺族で最近の靖国神社での若者たちの異様な風景を見て二度とお参りしたくないというのがいます。偏狭なナショナリズムの典型ですね。

山本 それにメディア、特にテレビが殆ど右寄り批判をしなくなりました。特定勢力の圧力があるのか自己規制なのか、ともかく権力監視・批判の原点を忘れています。

藤井 学生も本を読まないし不勉強です。郵政民営化に賛成という大学生に内容を聞いたら誰も答えられなかったそうです。民意といってもその程度なんです。

行政にはいい意味での誇りが必要

山本 政治家が人気を取るには官僚を叩けばいいと言います。官僚組織に問題が多いのは事実ですが、それでは副大臣だ、政務官だと政治家が行政になだれ込んでよくなったのですか。首相補佐官をやたらにつくったのもどうですか。質では官僚が政治家より上ではないですか。

藤井 同感です。英国の制度を導入したといっても能力のない政治家を入れれば機能しません。行政にはいい意味での誇りが必要です。政治家に、まるで要らない存在のように言われるのなら官僚は誇りを持ってません。

山本 帝国大学の法科大学が優れた行政マンの育成でスタートし、官僚が国家を背負う気概でやってきた。思い上がりもあったが、誇りをもってがんばってきたのも事実です。国民の公僕ですから、ただ数を減らせばいいのではなく何をさせるかの内容が重要です。官から民と言えば聞こえはいいが、バランスが崩れ、うまい汁を吸うのは大企業ですよ。

藤井 企業は空前の収益をあげていますが、庶民の懐に回らないから消費が活発にならない。利益は配当と設備投資に回すが、人件費にいかないのが最近のパターンです。

山本 景気回復の増税の味をしめ、成長すれば増税は避けられるかのような議論が出ています。落ち込みからの回復過程で成長が目立つ資源エネルギー、環境問題の制約、それに外需頼みの経済運営の限界を考えると旨い話はないと思います。来年の参院選目当てにした増税先送りの意図がみえみえです(笑)。

藤井 無責任な話です。経済界にも骨のある人がいなくなりました。それに経済財政相の太田弘子さんでは経済諮問会議の運営が覚束ない。竹中平蔵さんは小泉首相の強烈的な支援があって乗り切ったのです。

山本 官房副長官の的場順三氏の手腕が期待されています。

藤井 彼は激しい。もともと大蔵官僚ですが、大蔵には珍しい右寄りの人物で、官僚に対する防波堤として強力だと思います。

山本 格差問題への対応として所得税累進税率の見直しが不可避だと思います。努力する人に報いると高額所得者をかばってきましたが、非正規のワーキングプアが激増している中、所得に応じての負担は当然です。再チャレンジなどといって金融措置で誤魔化せる段階ではありません。

藤井 実際、ホリエモンや村上氏など巨額の資金を動かして儲ける人には、こたえられない税制ですね。それにしても石弘光税調会長(前)はどうしたのですか、長期答申を延ばしてしまっただけです。新政府の動向を見極めるというのでは何のための税調ですかね。

山本 教育改革も争論ばかりで具体的にどうするか、見えてきません。

藤井 基礎学力の落ち込みがひどい。元レートを上げる程度では中国との格差は埋めきれないほどになっています。愛国心は国が強制する問題ではありません。米国人に愛国心があるのは、あの国が住みよいからです。観念的な愛国心は敵をつくることですが、これは戦争になるので通用しない。国民が国を愛するには住みよくすることだと米国の良識派は言っています。

山本 悪質、悲惨な事件が頻発するようになったのはなぜか。教育基本法を改正して郷土や国を愛せばよくなるのか。次に国のために死ぬと言ったのが教育勅語です。

藤井 問題は複雑ですが、疎外感があると発想がおかしくなります。生きていたくない、恵まれた奴を殺してやりたいとなります。それには経済を良くしなくてはなりません。

山本 家庭はどうでしょう。

藤井 瀬戸内寂聴さんは、教育を直すには百年かかる、なぜなら親が悪いからと言っています。親の資格のない親が多過ぎるように思います。

山本 それに物質的に豊かで便利過ぎるとガマンやモットイナイの精神が薄れます。苦労の中の楽しみが楽しみを倍加させるのに、楽しみばかりになると価値が下がる。その世の中で倫理、規範といってみても空念仏になる。結局、どう自覚させるか、に帰着する。

藤井 私の大蔵省時代の目標は欧米並みの生活という所得倍増です。夜中まで働いても不思議に不平はなかったですね。ただ貧しくすれば世の中がよくなるという人も多いですが、そんな簡単なものではありません。

山本 入閣した女性閣僚や補佐官の殆どは男女共同参画に反対、女は家庭で育児と家事を、と頭の古い男議員に媚びています。

藤井 安倍さんの時代逆行は男女共同参画反対と核関連発言です。共同参画は夫婦でどちらが仕事に家事に適するかを考えればいい。核については岸氏の防衛核論をいうのです。撃たれたら撃ち返すというのですが、実際問題としてありえない。岸氏が言ったのは1970年の核拡散防止条約以前の話なんです。

山本 中国の、悪いのは一部の戦争指導者との姿勢を安倍氏は日本人を階級に分ける「階級史観」と批判しましたが、中国は日本人すべてが悪いのではないといって賠償を取らなかった。それなら改めて賠償を払うつもりなのか、日清戦争で日本は三億両の賠償金をとって金本位制を創設したのです(笑)。

藤井 ドイツとフランスは大和解で欧州同盟(EU)を発足させた。もう戦争はしない、の意思表示だが、アジアで出来ないのか。

山本 国家はやめられないが今は国家観を変えて地球人類的発想の時だと思います。このまま地球人類は90億人まで増えて、やがて絶滅を迎えるかもしれないのです。

藤井 米国だって国内は多民族、多文化、多価値観の時代です。私は日本が急激にナショナルリズム化するとは思いませんでした。

山本 欧州はイスラムとの共存に努力を始めました。イランとの関係改善も米国と違う方向を出しています。そして「ブッシュは悪魔」というベネズエラなど新しい反米勢力が出てきました(笑)。世界は変わります。

藤井 米国も変わります。

山本 1928年の米仏不戦条約が人類の理想であり、国際紛争に武力を用いない国連憲章、日本国憲法の原点です。日本も批准しながら満州事変で最初に破ったのです。

藤井 国際連盟脱退の松岡洋右外相が長州出身、岸家の親戚なんです(笑)。これまた長州の鮎川義介を加え「満州三スケ」です。

「いい戦争と悪い平和はない」

山本 このままでは昭和初期の政党不信になりませんか。民主党の責任は重い。

藤井 自民党は護憲の吉田自由党と改憲の鳩山民主党が合体してできました。二階堂進は国民協同党、鈴木善幸は社会党出身で、ソ連共産主義の恐怖に対して結束したのです。その点、今の民主党は甘すぎないか。選挙でも小選挙区は負けても比例区はトップ当選している。いつまでもバラバラでは駄目ではないか、自覚が必要だといっているのです。

山本 旧社会党グループはどうしているのですか。政治の右傾化の流れの中で声が聞こえてきません。

藤井 ただ社民党は小さくなったが、比例区の伸び率は小泉「劇場型選挙」の自民党並みです。世の中には社民党に期待する人が多いのです。もっと選挙で協力しなければ。それに民主党は比例区でトップなのに小選挙区の票で減ることが多かった。地元で、もっと歩かねばなりません。また選挙になれば小泉さんが出てくるのを警戒しなければなりません。

山本 来年の都知事選挙で石原慎太郎三選でいいのですか。非常勤講師ならぬ非常勤知事、

いいたい放題、都庁私物化の様子も見える石原氏を首都の顔のままにしておいていいのですか。

藤井 菅直人さんしかないでしょう。野党共闘が必要です。自民党が公明党と組んでいるのに民主党が共産党と組んで何が悪いか、という声があります。菅さんが安倍より我々が保守本流だと言って驚きました(笑)。

山本 日本には左翼がなくなった。共産党も左翼でなくなった。左派がりベラリストで右がどんどん伸びていく、このままでは間もなく治安維持法が出てくるでしょう。

藤井 自民党にも、いずれまともな声が出てくると思います。与謝野さんだって反戦歌「君子に給うことなかれ」の晶子の曾孫ではありませんか(笑)。

山本 国旗国歌強要違憲判決、共産党のビラまき無罪判決など右傾化に歯止めをかける動きもあります。これでこそ民主国家です。

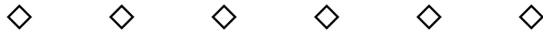
藤井 ベンジャミン・フランクリンが「いい戦争と悪い平和はない」と言いました。

山本 西郷隆盛が「南州遺訓」で「政治家は人民よりよい生活をしてはならぬ、自分より有能な人間がいたら職を譲れ」と言っています。これぞ政治家の原点と思います。

藤井 ローマのノーブリスオブリージェ(貴族の義務)も重要な言葉です。政治家が姿勢を正すのは最低の義務でしょう。

山本 岐阜、福島の知事もひどいですね。悪いことが出来る立場が政治権力なんですね。子供に社会奉仕をさせるといいますが、まず政治家に老人ホームや障害者施設での介護を義務付けたらどうですか、それが權より始めよでしょう。

藤井 確かに、政治家に基礎教育ができていません。倫理とか道徳というと、戦前の精神主義に戻るのかとの反論が出ますが、命を大事にする、家族が仲良くする、弱者を助ける、他人に親切にするとかは人間として至極当たり前のことなんです。



マスコミは政治に媚びてはならぬ

政治の右傾化を嘆く点で一致し藤井さんとの話に弾みがついた。元々「長州精神主義」(森本敏・拓大教授)の安倍首相の周辺にいるブレーンたちの偏向ぶりには驚くものがある。ただ9・11事件時の情勢と違い、欧米の世論や政情も変わって、よく世界を見れば日本だけ右傾化で突っ走る環境にはない。

安倍内閣最大の試練場という次の参院選を考えるとタカ派安倍氏としてもスピードはほどほどに、と現に所信表明では著書「美しい国へ」よりかなりトーンダウンした。靖国をめぐる中・韓との関係改善にも米国の意向があって熱心になったのは大きな変化である。

それでも藤井さんとの話でも度々出てきたのは、マスコミ自体、テレビに出てくる有識者？たちの政権に媚びるかのごとき姿勢である。かつてのように、だんだん物が言えなくなるような空気が漂う中であえて言いたいことを言ったわけだが、面白くない人もいるかもしれない。

日本国憲法は思想良心の自由を保証している。自分と違う意見も排除しないのが真の自由主義であり、多様な主義・主張が存在する限り戦争に進まないことを知るべきだろう。(山本雄二郎)